



題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉  
 発行2015年5月1日 〈毎月1日発行〉  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 eメール shiga.minken@gmail.com  
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ① ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ② 滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所



# 教育をめぐる10数年の 政策動向と対抗軸の構築

川本治雄

## 1 教員養成政策の特徴

2001年 平成13年 教員養成学部の再編・統合を意図した。あり方懇 2004年 平成16年 国立大学の法人化、その後の国からの運営費交付金連続10余年削減。毎年マイナス1%の今日を迎えているの今日、そして2012年

平成24年 からの大学全体の再編を意図した ミッションの再定義。の中で先行した分野としての教員養成改革。これらは、人口減少社会の到来、とりわけ18歳人口の減少を背景に、国立大学の再編・統合の大きな渦をつくりながら大学の機能分化強化の一環として教育再生実行本部 自民党 教育再生実行会議 内閣 中央教育審議会 中教審 というルートで財務省からの圧力を伴って、強力に推進されている。2 進む三つの重点分野と

### その対抗軸の構築

第1の論点は、次期学習指導要領の方向性として 何をどう教えるか

から 何をどう教えよう評価するか

までを一本化して明記することが明確になってきたことである。教育内容だけでなく、アクティブラーニングを強調することによって教育方法・評価までも学習指導要領によってコントロールするという強力な動きがでてきている。

このことへの対抗軸は、めざす子ども像 を明確にしたカリキュラム編成についての取組の具体化である。教科や分野などの個別の批判に止まらない、めざす子ども像 を明確にした教育全体についての論議を視野に入れたカリキュラムづくりの具体化を進めなければならない。

### 《 今月の紙面 》

- ・教育をめぐる10数年の政策動向と対抗軸の構築/川本治雄……………P1
- ・日本の近現代史を通して高校生に身につけてほしいこと/黄之瀬伸子P2.3
- ・ことばで伝えることを大切に～詩の授業を通して～/北河菜里……………P4.5
- ・滋賀大教育学部での教員生活を終えて～あたり前のことを大事にすることと大学での教員養成について/黒田吉孝……………P6
- ・部会報告/第3(中等教育)部会……………P7
- ・給食をめぐる昨今の事情/木田圭(公立小学校教諭)……………p8

教授 帝塚山学院大教授

かわもととはるお 和歌山大学名誉

すべき時である。

これらは、私たちの優れた実践の蓄積がある。今こそ体系化して対応

・授業研究・現職教育等での 研究同人 としての自主的・自立的研修内容や研修組織の確立である。

与えられる研修ではなく、校内研修

業外のような分野の取組を通じた研修である。重要なことは、上からの

基本は、日常的な学校での授業や授

生は喫緊の課題である。学校を

機能させるための教員の力量向上の

ような営みを支える教員の力量の醸

根ざす学校づくり と言い換えても

いいだろう。

第3の論点は、教員の資質向上に

関わる研修のあり方である。上記の

ような営みを支える教員の力量の醸

生は喫緊の課題である。学校を

機能させるための教員の力量向上の

基本は、日常的な学校での授業や授

業外のような分野の取組を通じた研

修である。重要なことは、上からの

与えられる研修ではなく、校内研修

・授業研究・現職教育等での 研究同人

としての自主的・自立的研修内容や

研修組織の確立である。

これらは、私たちの優れた実践の

蓄積がある。今こそ体系化して対応

すべき時である。

かわもととはるお 和歌山大学名誉

教授 帝塚山学院大教授